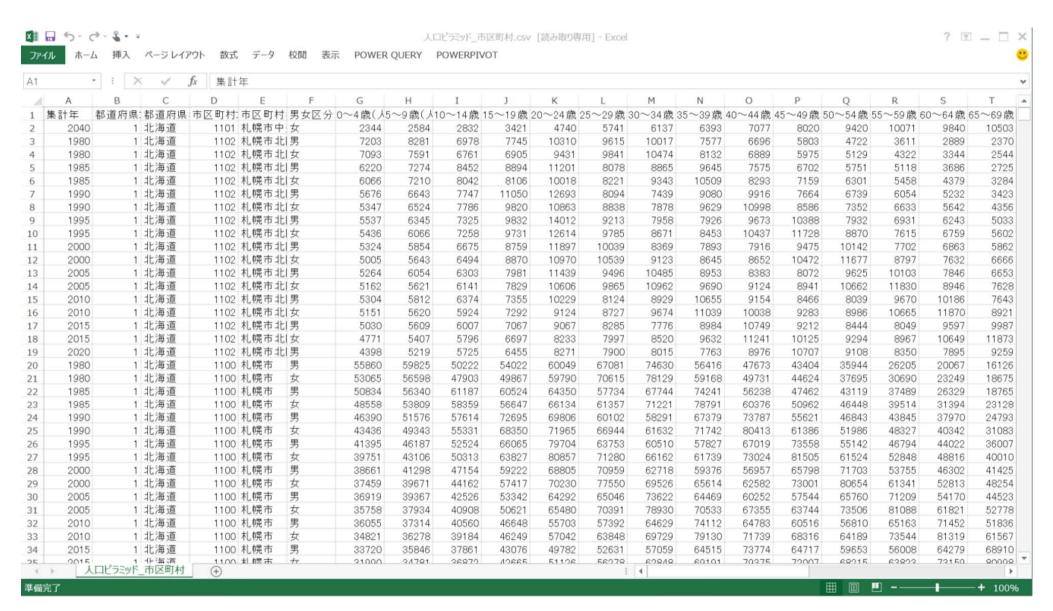
1. 人口ピラミッドのグラフ作成



人口ピラミッド_市区町村.csv(または人口ピラミッド_都道府県.csv)のデータをExcelで開きます。



人口ピラミッドを作成したい市町村のデータを別のシートにコピー&ペーストして、集計年ごとに項目名のラベルを付ける行(緑の部分)を挿入します。



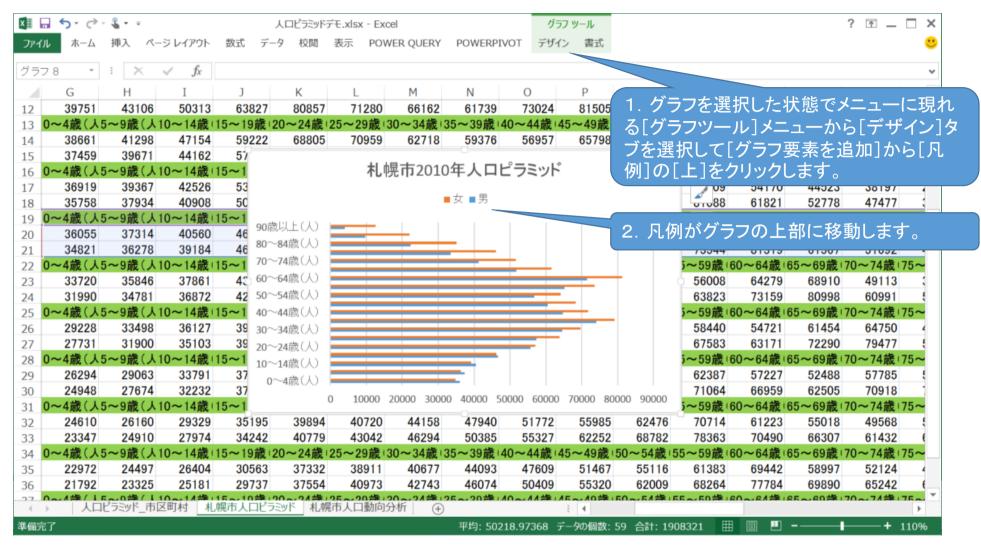
人口ピラミッドを作成したい集計年のデータと項目のセルの範囲(F19:Y21)を選択します。



セル範囲(F19:Y21)を選択した状態で、[挿入]タブから[グラフ]メニューの[横棒グラフの挿入]を選択し、[集合横棒]をクリックします。するとこのようなグラフが作成されます。



グラフタイトルの部分を選択し、適切なタイトルを入力します。



男女の凡例をグラフの上部に表示するには、グラフを選択した状態でメニューに現れる[グラフツール]メニューから[デザイン]タブを選択して[グラフ要素を追加]から[凡例]の[上]をクリックします。そうするとこのようなグラフになります。



グラフを選択した状態でメニューに現れる[グラフツール]メニューから[書式]タブを選択し、「グラフェリア」を選択し[選択対象の書式設定]をクリックすると、ウィンドウの右側に上記のような設定画面が表示されますので[サイズとプロパティ]のアイコンを選択し、[プロパティ]のメニューから[セルに合わせて移動するがサイズ変更はしない]を選択します。この設定によってグラフの大きさを調整したときにフォントのサイズが変更されないようにします。またその後グラフェリアを選択した状態で[ホーム]タブの[フォント]メニューから、フォントサイズを[9]に設定します。



系列"女"のデータ系列の書式設定ウィンドウを開きます。[系列のオプション]アイコンのタブで「使用する軸」として[第2軸(上/右側)]を選択します。



「男」の数値軸の設定を編集します。プルダウンメニューで[横(値)軸]を選択し、軸の書式設定ウィンドウを開きます。[軸のオプションアイコン]タブで「最小値」、「最大値」、「目盛間隔」、「補助目盛間隔」を設定します。設定する値は人口データによって異なりますが、「最小値」に「-(最大値+目盛間隔)」を入力するのが最も重要なポイントです。ここで最大値にプラスした目盛間隔の大きさが人口ピラミッドグラフの真ん中の階級名の領域の幅となります。



ここでは最小値を-150000、最大値を100000に設定しました。これによって目盛り50000分の幅が、真ん中の階級名の部分に割り当てられます。また「男」を左側に表示したいので[軸を反転する]にチェックを入れます。



同様に「女」の数値軸の設定を編集します。プルダウンメニューで[第2軸横(値)軸]を選択し、先ほど設定したのと同じ値を入力します。

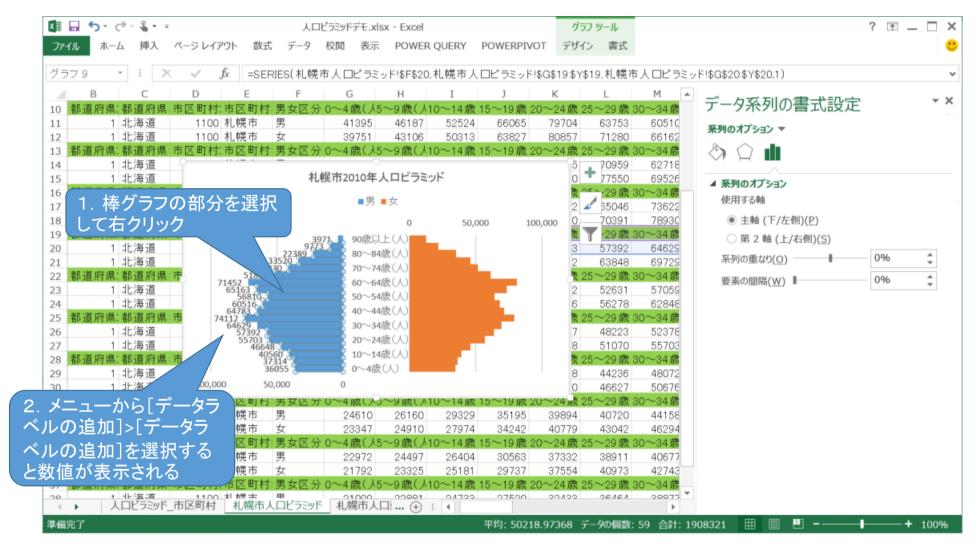
こちらは軸を反転する必要がないので、チェックは入れません。



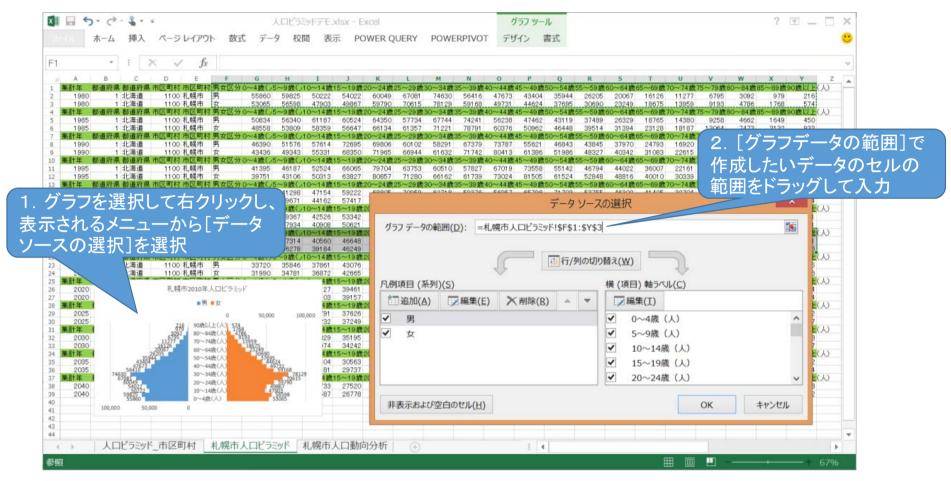
このままでは軸の目盛にマイナスの数値が表示されてしまうので、これを表示されないように設定します。「男」の数値軸の設定は、プルダウンメニューで[横(値)軸]を選択し、[軸のオプションアイコン]タブの[表示形式]プルダウンメニューを表示します。[カテゴリ]の欄で[ユーザー定義]を、「表示形式コード」の欄で「#,##0;」を選択し[追加]をクリックします。「女」の数値軸の設定は、プルダウンメニューで[第2軸横(値)軸]を選択し同様に設定します。



「男」の棒グラフの部分を選択し、[系列のオプション]アイコンのメニューから[要素の間隔]を0%に設定すると、上記のような棒がくっついた形のグラフになります。同様に「女」の棒グラフの部分も設定します。



「男」の棒グラフの部分を選択し、右クリックする表示されるメニューから[データラベルの追加]>[データラベル の追加〕を選択すると、棒グラフの先端に数値が表示されます。 同様に「女」の棒グラフの部分も設定します。



他の集計年のグラフも作成したい場合には、作成したグラフをコピーして、そのグラフを選択し、右クリックすると表示されるメニューから[データソースの選択]を選択します。

すると画面のようなウィンドウが表示されますので、[グラフデータの範囲]で作成したいデータのセルの範囲をドラッグして入力します。この場合は集計年1980年のセル範囲(F1:Y3)をドラッグしているので、その部分が点線で囲まれています。OKをクリックすると1980年の人口ピラミッドが作成されます。



グラフのタイトルを1980年に変更しました。作成したグラフが見にくい場合は、グラフの高さや幅などを見やすくなるように調整してください。